



Challamel del. Paris Challamel 488 R. de l'Abbaye Imp. Oberlin Paris  
M<sup>me</sup> CARLOTTA GRISI  
dans Giselle

## Kenji Usui Ballet Collection

### 薄井憲二バレエ・コレクション ジゼルを初めて踊ったダンサー ～ロマンティック・バレエ I～

# vol.8

2007/9/26 (Tue.)～2007/10/28 (Sun.)

ジゼル / Giselle ou les Willis

初演時の正式タイトルは『ジゼル、あるいは妖精たち』

台本：サン・ジョルジュ、テオフィル・ゴージェ 振付：ジャン・コラッリ  
音楽：アドルフ・アダン 美術：ピエール・チチュリ 初演：1841年6月28日  
ジゼル：カルロッタ・グリジ アルブレヒト：ルシアン・プティバ  
ミルタ：アデル・デュミレートル

『ジゼル』はロマンティック・バレエの代表的な作品であり、現在も踊り続けられている名作です。時は秋、葡萄の収穫の頃、舞台はドイツ。踊ることが大好きな村娘ジゼルは村男に扮した貴族アルブレヒトと恋に落ちます。ジゼルに恋しているのに相手にされない森番のヒラリオンは面白くありません。また、突然現れたアルブレヒトに不信感を持ち、彼が実は貴族である証拠を見つけてしまいます。

ジゼルは恋に夢中ですが、そんなヒラリオンの手によって運悪く目の前でアルブレヒトが貴族で婚約者が居ることを見せつけられてしまいます。元々心臓が悪かったジゼルはショックのあまり気がふれ、心臓発作を起こして、アルブレヒトの腕の中で死んでしまいます。そして、結婚せずに死んだ娘は妖精(ウィリ)となって森に来る男性を踊り殺してしまうという言い伝え通り、妖精の仲間入りをします。そしてお墓に来たヒラリオンは無理に踊らされ、最後は沼地に落とされて死んでしまいます。続いてやってきたアルブレヒトも踊らされ、息も絶え絶えになりますが、妖精の女王ミルタには逆らえないはずのジゼルはその力に抗い、自分を裏切った恋人をなお愛し続けアルブレヒトを妖精の力も存在も消えてしまう朝の光が見える時間まで守り通し、自分はまたお墓へと消えていくのでした。

カルロッタ・グリジ / Grisi, Carlotta

1819年生まれ、1899年死去。ロマンティック・バレエ時代を代表するダンサーの一人。ミラノ・スカラ座バレエ学校に学び、1834年にジュール・ペローに出会い、結婚することになったが公私共に生活を共にするようになった。コラリ「ラ・ペリ」、ペロー「エスメラルダ」、「パ・ド・キャトル」、マジリエ「バキータ」などを初演。1850～1853年にはロシア帝室劇場にも出演。1854年(34歳)で引退しスイスに居を移した。

### 薄井憲二バレエ・コレクション ジゼルを初めて踊ったダンサー ～ロマンティック・バレエ I～

# vol.8

First "Giselle dancer" ~ Romantic Ballets I ~  
2007/9/26 (Tue.)～2007/10/28 (Sun.)

出展リスト (作品・資料名/分類/年代/ほか)

◆テオフィル・ゴージェに宛てたカルロッタ・グリジの手紙  
(手紙[AU 51]/1840年代/フランス語)

Signed handwritten Letter of Grisi, Corlotta to Gautier, Theophile.  
Wed.25/1840's (AU 51)

◆「ジゼル」を踊るカルロッタ・グリジ (『オペラ座のアルバム』より) <表紙写真>  
(プリント[AP 177]/1840年代/バリ)

Melle Grisi, Corlotta dans Giselle, Album de l'Opera No.4  
Paris Challamel édit R. de l'Abbaye Challamel del. Imp Bertaut Paris/1840's (AP 177)

◆「ジゼル」初演台本

(台本[LT 35]/1841年/バリ オペラ座出版)

Giselle ou Les Willis Librairie de l'Opera le Théâtre de  
l'Académie royale de Musique/Paris 1841. 7. 28 (LT 35)

◆カルロッタ・グリジのポートレート

(プリント[AP 123]/1830-1840年代)

Portrait of Grisi, Corlotta /1830-1840's (AP 123)

## 次回予告

### 薄井憲二バレエ・コレクション Vol.9 コクトー・オン・ステージ ～“社交界の軽薄王子”から“アーティスト”へ～

ジャン・コクトーは最初のマルチ・アーティストといえる大変多才な人物でした。しかし自らが語っているようにディアギレフに出会うまでは“社交界の軽薄王子”としての日々を送っていたのでした。コクトーがアーティストに変貌したディアギレフとの出会いを中心にご紹介いたします。

(期間：2007/11/27～2008/1/27 於：2階メインエントランス)

◎企画展予告

バレエ・リュスII～バレエ・リュスの1920年代とアフターバレエ・リュス～  
(期間：2007/10/30～2007/11/25 於：2階共通ロビー内ボック)

◎企画・監修

芳賀直子 (はが・なおこ 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)  
Naoko Haga (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)